

平成 25 年度第 3 回小牧市外部評価委員会会議録

- 1 **開催日時** 平成 25 年 10 月 28 日（月）
午後 1 時 30 分～午後 4 時
開催場所 小牧市役所本庁舎 6 階 601 会議室

2 出席者

(1) 外部評価委員会委員（敬称略）

椋山女学園大学 文化情報学部 教授	武長 脩行 ◎
名古屋経済大学 法学部 准教授	萩原 聡央
あおい交通株式会社 代表取締役社長	松浦 秀則
(特)こまき市民活動ネットワーク 代表理事	松田 敏弘 ○
市民公募委員	石川 和貴
市民公募委員	丹羽 奈知代

◎委員長 ○委員長職務代理

(2) 事務局 市政戦略課：鶴飼課長、矢本係長、宮本主事

(3) 傍聴者 1 名

3 会議資料

会議次第

資料 平成 25 年度小牧市外部評価結果報告書（案）

4 会議内容

1 あいさつ

2 議題

(1) 小牧市外部評価結果報告書について

(委員長)

議題 (1) 外部評価結果報告書について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、「外部評価結果報告書」について、説明をさせていただきますが、本日は、ある程度のセクションで区切って、その都度、審議をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

まずは、あらためて報告書の構成について説明させていただきます。まず、表紙の日付は、武長委員長にこの結果報告書を市長に手渡していただく日ということになります。

1 ページ、「はじめに」は、武長委員長のあいさつです。事前にお配りしま

した、報告書案では作成中となっていましたので、本日、1枚紙で用意させていただきます。

2ページからは「外部評価の概要」で、評価の流れや判定区分など、今回の外部評価の概要です。

5ページからは「会議等開催経過」です。

10ページからは、評価委員の皆様アンケート結果を基に作成した「外部評価の総括コメント」です。

13ページからは外部評価結果となっておりまして、まず、行政評価市民公開フォーラムの結果です。

そして、45ページ以降に模擬外部評価結果を掲載しております。

なお、模擬外部評価については、評価委員の事前準備の一環として実施したものであり、外部評価結果報告書に掲載するかどうかは、今回の、第3回外部評価委員会で決めていただくことになっておりましたので、ここで一旦、切らせていただきまして、報告書の構成内容と模擬外部評価結果を報告書に加えることとしてよいか、についてご審議よろしくをお願いします。

(委員長)

報告書の構成内容と模擬外部評価結果を報告書に加えることとしてよいか、についてですが、いかがでしょうか。

(松浦委員)

模擬外部評価といっても、市民公開フォーラムと同じ評価作業を行っているわけですから、結果についても同様に取扱いが良いと思います。

(松田委員)

結果について特に差し障りがあるわけでもないですし、特に音楽事業などは市民の関心も高いでしょうし、同様の取扱いで良いと思います。

(萩原委員)

別の取扱いにする理由がないと思います。

(丹羽委員)

模擬外部評価対象事業もきちんと評価したので、報告書に載せれば良いと思います。

(石川委員)

載せれば良いと思います。

(委員長)

では、模擬外部評価についても同様に取扱うこととします。

(萩原委員)

報告書の形式についてですが、目次を見ますと「I はじめに」からはじまりますが、「おわりに」がありません。「I はじめに」から「V 外部評価結果」まで章立てになっていますが、章立てにするならば、「IV 外部評価の総括コメント」が「おわりに」にあたるように思うので、「IV 外部評価の総括コメント」

を最終章にした方が良いかと思えます。もしくは、このままの章立てとするなら、「V 外部評価結果」を「資料編」とし、いずれにしても、一番重要な部分である「外部評価の総括コメント」を最終章にした方が良いかと思えます。

(委員長)

委員会としては、総括コメントが一番しっかり読んでいただきたい箇所です。

(石川委員)

「外部評価の総括コメント」を後ろに持ってくると、読まれなくなる可能性もあるので、「外部評価結果」を「資料編」として最後に掲載した方が良いかと思えます。

(松田委員)

確かに、「外部評価の総括コメント」を読んでいただきたいが、興味のある人は最後まで読むし、興味のない人は全く読まないでしょうし、「総括」ということであれば最後に掲載すべきかなと思えます。

(委員長)

「外部評価の総括コメント」という言葉も「外部評価の総括」が良いと思えます。昨年度はこの資料の順番ですか。

(事務局)

昨年度はこの順番でした。私たちの印象としては、こういった報告書を受け取った場合は、最初と最後の部分は真ん中に比べてしっかり読むことが多いように思えます。

(松浦委員)

自分もこういったものは、「総括」のみ読んで終わりですし、最後でも良いと思えます。

(委員長)

石川委員はいかがですか。

(石川委員)

最後でも良いです。

(委員長)

それでは、「V 外部評価結果」と「IV 外部評価の総括」を入れ替えることとします。そうすると、「外部評価の総括」の最後の文章としては、「以上の意見を踏まえて～」というような部分があった方が良いと思えます。

(事務局)

分かりました。

それでは、続きまして報告書の内容を順に説明をさせていただきます。まず、1ページの「I はじめに」についてであります。武長委員長と事務局で作成したものであります。内容については、お配りした資料のとおりです。

(委員長)

内容についていかがでしょうか。分かりにくい部分や足りない点があるかど

うかいかがでしょうか。

(松田委員)

担当課の対応について、職員にとっては当たり前なことで、これで良いと思うことでも、我々にとっては説明が不足していると感じることがありました。次回の開催に向けては、やはり市民にとって分かりやすい説明をお願いしたいということをごどこかに入れていただければと思います。

(委員長)

4段落が「不十分な対応の担当課も見受けられました」で終わっていますが、ここの辺りにもう少し、市民目線を意識した説明を求める内容を加えるということですね。

(石川委員)

1ページの「はじめに」についてですが、ここは全体の中からポイントを押さえた内容を掲載する部分かと思いますが、市民の傍聴者が少なかったことはここでは触れないということですか。

(委員長)

傍聴者が少ない要因としては、市民の成熟度やPR不足などいろいろな要因があると思いますが、1ページの3、4段落あたりで傍聴者を少なかったこと、市民の関心が低いことに触れるかどうかです。本文の中ではどこで記載されていますか。

また、市民判定員についての記載はどこかにありますか。

(事務局)

11ページや12ページの総括コメントの中で「傍聴者が少なく残念である。」といった記載があります。

市民判定員についても11ページに「市民判定員の意見聴取はとても良かったと思う。」といった記載があります。

(松田委員)

壮年期等保健事業では、市民にとっては経費の中の「需用費」の意味が分かりにくかったですし、金額も785万円と大きいにも関わらず説明不足で不十分な対応のひとつだったと思います。

(事務局)

「外部評価の総括」の中では、「配布された資料について」という部分で記載していますが、「はじめに」でも記載するかどうかです。

(委員長)

市民目線の分かりやすい資料と説明、もうひとつ市民の関心を高めるということがあります。

(石川委員)

「外部評価（行政評価市民公開フォーラム）」という言葉がありますが、「外部評価」と「行政評価市民公開フォーラム」は同じ意味でしょうか。「外部評

価」の結果報告書と「行政評価市民公開フォーラム」のコメントと言葉を使い分けていますが、同じことと捉えて良いのでしょうか。

(事務局)

「行政評価市民公開フォーラム」には模擬外部評価が入っていませんが、「外部評価」には模擬外部評価を含めた全てのことで、使い分けをしている箇所があります。

(委員長)

市民目線の分かりやすい資料で評価を行うということ、それから市民の関心が低かったということ「はじめに」のどこに入れたら良いかということです。

(萩原委員)

例えば、3行目のあとに、「今年度の市民公開フォーラムでは市民判定員何名、傍聴者何名の参加があり」と記載し、「参加者数はまだまだ少ないので、今後、市民の参加が増えることを期待します」と記載して完結させるのはどうでしょうか。

(委員長)

今回の傍聴者数は何名ですか。

(事務局)

2日間で延べ80名です。アンケートを提出してもらえずカウントできなかった人もいたかと思いますが、公式にはこの人数です。

(委員長)

市民判定員は何名ですか。

(事務局)

2日間で延べ33名です。

(委員長)

では、そういう人数を入れて、市民の関心を高めることについても記載するというので良いですね。

(丹羽委員)

「はじめに」の部分に結論が書かれていると思います。

(委員長)

今回は、実施後の「外部評価が終わりました」という報告書ですので、「はじめに」の部分でも外部評価全体を通した意見が書かれています。

(丹羽委員)

最後の「おわりに」という部分に結論を書けば良いと思います。

(委員長)

「はじめに」の部分に市長に渡す一番重要なことが書かれています。最初の箇所で入れないといけないので、同じことを二重に書くような感じになります。細かいことが本文に書かれています。最後に「おわりに」という部分にはまとめを書くことになります。市の報告書はそういう感じによろしいですか。

(事務局)

そうです。「はじめに」の部分で最初に武長委員長から総括してもらうことになります。

(松田委員)

「はじめに」についてですが、市民判定員や傍聴者の具体的な人数については、「総括」の部分で記載し、「はじめに」の部分では、市民判定員から意見をもらったという内容程度の方が良いかと思います。

(委員長)

それでは、「はじめに」には、市民判定員の発言機会を設けたこと、市民目線の分かりやすい資料作成について、傍聴者が少なかったこと、市民に関心を持ってもらうことについて追記することにしたいと思います。

その他、何かありませんか。

(松浦委員)

「はじめに」の1段落目で、「財政構造の硬直化が進む」となっていますが、市民にとっては分かりにくいので「財政的に厳しくなる」くらいの方が良いかと思います。

(委員長)

では、そのように修正することとします。

「はじめに」の5段落目、「PDCAサイクルを徹底する」も市民にとっては分かりにくいかもしれません。

(萩原委員)

「業務改善に向けた取り組みを徹底する」くらいでも良いと思います。

(委員長)

では、そのように修正することとします。「PDCAサイクル」については、どこかに記載しますか。

(事務局)

「PDCAサイクル」については、「外部評価の総括」で説明を入れて触れることとしたいと思います。

(委員長)

わかりました。「はじめに」については以上として、続けて説明をお願いします。

(事務局)

続きまして、結果報告書の2ページから4ページをお願いします。「Ⅱ 外部評価の概要」です。

続きまして、5ページをお願いします。「Ⅲ 会議など開催経過」です。5ページが第1回外部評価委員会の内容です。6ページが第2回外部評価委員会の内容です。7ページが模擬外部評価の状況です。8ページがフォーラム当日の状況です。9ページが本日、第3回外部評価委員会の内容です。

続きまして、10 ページの「Ⅳ 外部評価の総括コメント」についてであります。記載の内容につきましては、先日評価委員の皆様をお願いをしましたアンケートを基に作成したものであります。この「外部評価の総括コメント」内容について、ご意見や追加して記載してほしい内容などが無いのか、ご審議をお願いします。

(委員長)

2 ページの「外部評価の趣旨」というのは、昨年度と大きくは変わっていませんか。

(事務局)

大きくは変わっていません。

(委員長)

全体的に文章が長い箇所は短くしてほしいと思います。例えば 10 ページの「(3) 1 事業の時間配分について」という辺りです。あとは、11 ページの市民判定員に関する部分も内容が同じなので、まとめてください。

(事務局)

わかりました。

(委員長)

他には分かりにくい部分として、11 ページの一番下で「もっと、ラフな形で市民の声を聞く会であっても良いと感じた。」とありますが、これは具体的にはどういう意味でしょうか。外部評価の運営方法を変えるか、もうひとつ別の形でやるのでしょうか。

(松浦委員)

現在は、タウンミーティングのようにラフな形で市長が直接市民の声を聞く会もあります。外部評価は限られた人しか参加していないので、タウンミーティングのような形のものでも良いと感じました。

(委員長)

タウンミーティングと連携を取ったりするということでしょうか。

(松浦委員)

そこまで深く考えて書いた内容ではありません。タウンミーティングのようなラフな形でやっているのです、それを評価するつもりで書いたものです。

(委員長)

行政評価市民公開フォーラムの改善というわけではないということですね。ここではタウンミーティングの話は出ておらず、やや分かりにくいので、この箇所については削除してもよいですか。

(松浦委員)

削除いただいて構いません。

(委員長)

あとは、11 ページから、「(6) その他、外部評価にあたっての意見・感想

について」の中でいくつかの項目別に記載されていますが、ここは項目別に番号を付けた方がいいかと思います。

(事務局)

番号を付けた上で、他の箇所も含めて流れに合う場所に入れることにします。

(委員長)

あとは、「総括」の初めに導入部分を入れて、最後の「終わりに～」という箇所も追加してください。全部「ですます調」にする感じですか。

(事務局)

「総括」の最初と最後を「ですます調」にすれば、中の部分は「である調」の方が評価委員の皆さんのニュアンスが伝わるかと思いますが、中の部分は「である調」としたいと思います。

(松田委員)

模擬外部評価の位置づけはどのようなものになるのでしょうか。どうせなら「総括」の部分に模擬外部評価についても、触れていただければと思います。

(委員長)

では、そのように修正することとします。

模擬外部評価をやりましたが、問題は、模擬外部評価を傍聴した担当課にフォーラム本番に活かされていなかったと思いますが、そのことを「総括」に記載しますか。

(萩原委員)

11 ページの「事前準備」の箇所に「模擬外部評価を実施したが、外部評価担当課には十分に活用されなかったから活用していただきたい」といった記載を追記してはいかがでしょうか。

あとは、先ほどの松田委員からの意見の関係で、7 ページの模擬外部評価の箇所にも、「模擬外部評価結果も市民公開フォーラムの結果と同じ位置づけである」との内容を記載してはどうでしょうか。

(委員長)

では、そうすることにしますのでよろしくお願いします。

11 月 22 日に市長に提出するわけですが、どういうことを伝えましょうか。今後どうしていくか、外部評価の目を終わらせないようにしてほしいとするか、必要だが 3,000 人へのアンケートは大変だからやらなくてよいとするかなど。

(松田委員)

今回は 1 班体制にして、評価数を少なくしましたが、私はできるだけ多くの事業を多くの市民に聞いてもらった方がいいかとも思います。

(松浦委員)

このフォーラムは、かなり担当課に負担がかかっている気もしますし、今のやり方が最適か効果はどうかという課題はあると思います。外部の視点が入ることで担当課に緊張感が出るならあっても良いと思います。ランダムに簡単に

やっても良いかと思えます。

(石川委員)

外部評価をやることによって良くなっているならやれば良いと思えます。費用対効果は難しいと思えますが、やめることで市の事業がよい加減になってしまうのもいけないと思えます。

外部評価では、私はお金で評価するつもりでした。かけたお金より効果があれば良いかと思っていましたが、ボリュームでの判定だったので分かりづらくなったという感じです。

(委員長)

外部評価自体を残すかどうかという部分は重要ですね。

(石川委員)

やることによって、前年より良くなっているなら、続けても良いのではないかと思えます。毎年やることで効果が広がって行って良くなっていく前提で続けてほしいと思えます。

(丹羽委員)

一番気になったのは、紙がすごく多いので、もう少しペーパーレスにしてほしいと思えます。あとは、もっと広い会場でやっても良いと思えました。

(委員長)

傍聴者が少ないので難しいですが、PRについては「総括」でも触れてもらってもよいかと思えます。

外部評価の視点は重要、市民目線が重要というのは、全委員が一致しているので、そこも触れてもらっても良いかと思えます。

(松浦委員)

議員の方は外部評価をどう思っているのでしょうか。議会でも同じことをやっていると思えますが。

(事務局)

「これは議会の役目だ」と言われる方もいれば、「外部の視点は重要だ」と言われる方もいます。

(松浦委員)

議会よりは外部評価の方がラフな場だと思えますが、担当課はどのように思っていますか。

(事務局)

担当課は、外部評価対象になることで緊張感を持ちます。

(松浦委員)

傍聴者数は23年度が一番多かったのではないのでしょうか。

(事務局)

23年度が一番多かったです。当時は事業仕分けの流行りもあって「有りか無しか」という視点で注目されましたし、事業が廃止されるかもという不信感

も持たれて傍聴者が多かったのだと思います。しかし、実際に小牧市の外部評価は廃止ありきではなく、事業改善に向けた取組みに重きを置いておりますので、何をされるか分からないという不安がなくなって関心が薄れたということはあるかもしれません。市民の傍聴者が減ってきたのも、そういう点が原因もあると思います。

外部評価については、委員の皆さんからいただいた改善点の指摘は、非常に有効と思っていますが、フォーラムという形式でやるというスタイルには、事務局としても限界を感じており、改善が必要を感じているところです。

(萩原委員)

職員の意識改革に繋げる取り組みという意味で、外部評価は非常に有用かと思えます。何千万円という大きな予算を使っていることが当たり前な職員に気付きを与える意味でも有用かと思えますし、継続的にやっていく意義はあるかと思えます。

市民参加が少ないことに関しては、理由がPR不足なのかということについては疑問があります。財政が豊かな小牧市において、市民の中にどれだけ危機感、緊張感があるかということもありますし、事業が廃止になれば傍聴者も増えるかもしれませんし、今回、市民判定員が発言できましたが、参加した市民傍聴者が自分の意見を言えれば参加者数は増えるかとも思えます。実際には議論の收拾がつかなくなったり、時間の問題もあり実現は難しいかもしれません。

(委員長)

先ほどの石川委員の話もありましたが、外部評価にはどれくらい経費がかかっていますか。

(事務局)

3,000人に対するアンケートの印刷、郵送代、委員さんへの報償費、コーディネーターへの委託料等で170万円くらいですが、他には私どもの人件費、担当課職員の準備にかかる人件費があり、担当課10課分を足し合わせると、大きな額になると思います。

(石川委員)

外部評価そのものについて評価をして、費用対効果を確認しないといけないと思います。他の事業について評価して、外部評価については評価がないというのではまずいと思います。

(事務局)

行政評価事業についても内部評価はしておりますが、ただ私ども事務局の人件費を入れた評価シートになってはいますが、担当課の人件費までは見込んでいないので、その辺りの精査をして、本当にいくらかかっているかという点を検討する必要があるかと思えます。

(石川委員)

この3年間実施したまとめについて記載がありますが、今年やった事業が来年度どうなっていたか、何か外部評価から取り入れたものがあれば、意味があったと思えます。

(委員長)

これまで外部評価をやったことで効率化、スリム化することを行政内部でやっていく必要があります。我々は外部で言いつ放しの状況ですので、それに対して行政内部でまとめてほしいと思います。

(石川委員)

逆に良くなったことをアピールしてもらえれば、外部評価の意味があったと分かります。「維持」のものは仕方がないものもあったかと思えます。

(松浦委員)

対象事業の中で、維持しなければ仕方がないというものもありました。廃止になったものに「市民憲章推進事業」があったと思いますが、行政にとっても止めたい事業がここに挙げれば止めやすいかと思えます。対象事業の内容にも夜と思えます。「図書等購入事業」などはなかなか廃止とは言えません。

(松田委員)

事業選定のアンケートを取るときに、事業の説明は載せているのでしょうか。

(事務局)

説明は載せていますが、アンケートでは市民にとって重要な事業が選定されやすいですが、市民にとって重要な事業は、「維持」を付けざるを得なくなっているかと思えます。

(松浦委員)

外部評価で出されるものが市民にとって重要なものであればそうなるかと思えます。

(事務局)

ただ、事務局としては、「拡大」や「維持」といった判定は象徴的なものであって、委員や市民判定員の皆さんから良い改善案をいただくことを重視しています。今回も「維持」が多い結果となりましたが、判定理由や改善案の中で、評価委員や市民判定員の皆さんから良い意見をもらえたと考えています。

(委員長)

今回の報告書の修正は、今後どのようにまとめますか。

(事務局)

いただいた指摘を踏まえて修正したものを、委員の皆さんに送付して再度ご確認いただこうかと思えます。

(松浦委員)

この外部評価はいつから始めましたか。山下市長になってから始めたものでしょうか。

(事務局)

前市長の時代から準備はしていました。当時、事業仕分けや外部評価を実施する自治体が増える中で、議会から小牧市も実施してはどうかとのご提案をいただき実施に向けた検討を行っておりました。ただし、現在のように多くの市民に見てもらうために、市民公開フォーラムという形式を取り入れたのは、山下市長の意向です。

(委員長)

市民参加の増加に向けてどういうやり方にするか検討してほしいと思います。

それでは、これで、議題（1）外部評価結果報告書についての審議を終了します。

3 その他

(委員長)

その他として何かありますか。

(事務局)

1点ございます。今後のスケジュールについてですが、本日、ご意見をいただきました点につきまして、修正をし、武長委員長には、11月22日（金）10時30分から、この結果報告書を市長に手渡していただく予定であります。また、皆様には、同日、郵送させていただくとともに、ホームページに掲載をさせていただきます。

市としては、報告書の提出を受けて、早急に、二次評価を行うと共に、今後の「取組方針」を策定し、次年度以降の予算に反映していきたいと考えております。なお、「取組方針」につきましても、策定でき次第、ホームページで公開するとともに、評価委員の皆様には報告させていただきます。

以上で、今後のスケジュールについて説明を終わります。

(委員長)

その他についてご質問等ありますか。特にないようですので、事務局にお返しします。

(事務局)

それでは、最後に事務局を代表しましてお礼のあいさつをさせていただきます。7月8日から本日に至るまで、また報告までの間、委員の皆様におかれましてはしばらくお世話になります。お礼申し上げます。ありがとうございました。

冒頭の市長公室長からのあいさつや先ほどの事務局説明でも申し上げましたが、今後は、皆様からの結果報告書を受けまして、早急に、今後の「取組方針」を策定し、次年度以降の予算への反映と事業改善に繋げていきたいと考えております。

本日の審議の内容をお聞きしまして、3つの大きな課題があると認識しているところです。まず、外部評価について来年度以降どうしていくのか検討する必要があること、これについては本日いただいた意見も参考に詰めていきたいと思えます。現時点では未定という状況です。2点目は、傍聴者が少なかったということで、外部評価に限らず市政全般について、市民の方の関心が低いという状況がありまして、どうしていくかについては行政の課題でありますので取り組んでいく必要があると思えます。3点目は、我々職員の意識改革であります。私は課長職ですが、市役所内には50数名の課長職がおりそれぞれ個性がありますが、やはり住民の方にきちんと説明責任を果たすということは、1つの研修を受けて急に向上するわけではありません。そういう場のひとつとして外部評価が有益であったということをも改めて認識しました。

いずれにしましても、委員の皆様におかれましても、今後も市政発展のために、ご協力いただけますよう、お願いを申し上げます。お礼の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

それでは、これもちまして、第3回小牧市外部評価委員会を終了させていただきます。委員の皆様、長時間にわたり誠にありがとうございました。